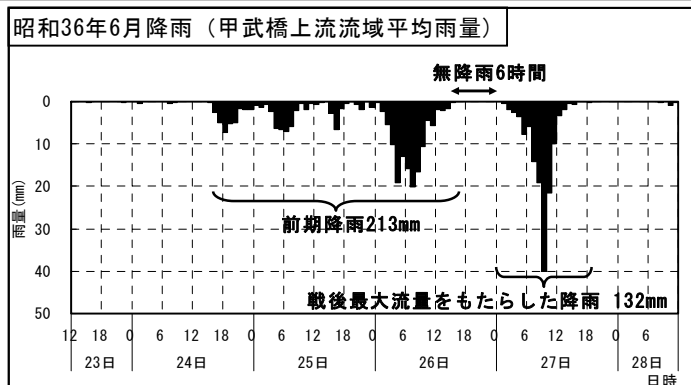
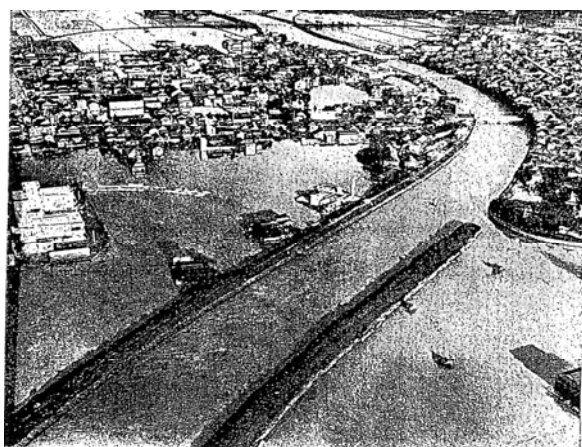


昭和36年6月26日から27日にかけての降雨の状況



昭和36年6月26日から27日にかけての武庫川での被災写真



浸水を受けた市街地（産経新聞社提供）

写真1 浸水を受けた市街地（産経新聞社提供）

（出典：「第37号 伸びゆく三田」昭和36年7月10日）

浸水した三田駅前通り 三田市 今昔



写真2 浸水した三田駅前通り

（出典：「三田市今昔」）

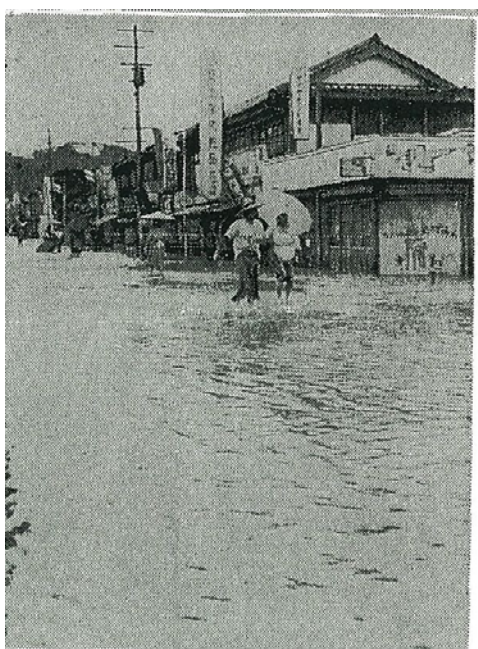


写真3 水びたしとなった三田駅前通り

（神戸新聞（攝丹版）昭和36年6月27日）

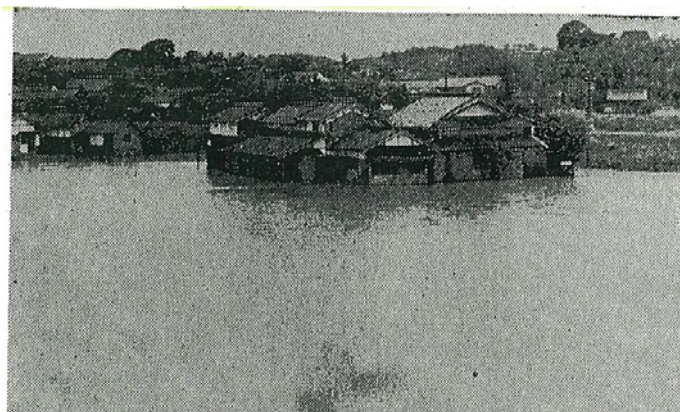


写真4 池のようになった田畑＝三田市役所付近で

（神戸新聞（攝丹版）昭和36年6月27日）

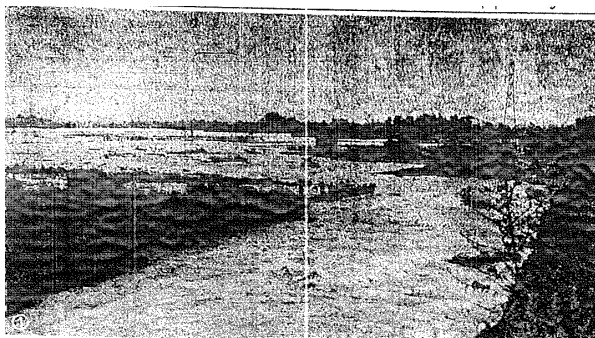


写真5 ぽっかりと口をあけたような大きな傷口
水は流れをかえ田へ流れ込んだ＝伊丹市
荒牧天王寺川で
(神戸新聞(阪神版) 昭和36年6月27日)



写真6 もう夏とはいえ水は冷たい。しかし自衛隊
員はうずまく水中で仕事を続けた＝伊丹
市荻野天神川で
(神戸新聞(阪神版) 昭和36年6月27日)

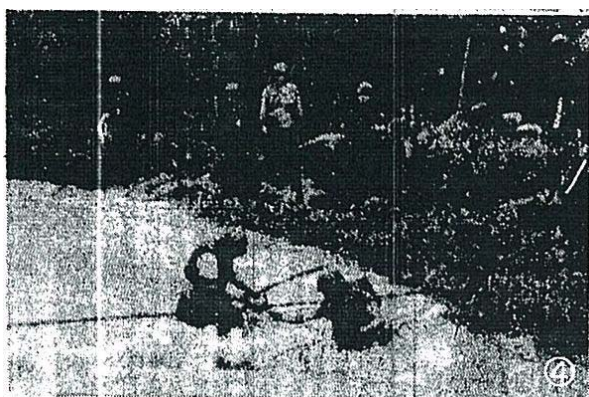


写真7 伊丹・天神川堤防の補強工事に活躍する自
衛隊員
(読売新聞(阪神版) 昭和36年6月27日)



写真8 堤防決壊で黙々と作業する自衛隊員
＝伊丹市荻野・天神川で、27日午後0時半頃写す
(神戸新聞(阪神版) 昭和36年6月28日)



写真9 第二阪神国道「武庫川大橋」西詰
め橋脚に土のうを積み、堤防のく
ずれを防ぐ＝西宮市武庫川町で、
27日午後2時50分ごろ写す
(神戸新聞(阪神版) 昭和36年6月28日)

はやくも復旧に立ちあがる

まず被災者を救助…

阪神間
各市 防疫にも乗り出す

阪神間各地は二十七日も、水の猛威にさらされた。むじつらしい傷あとを残したが、午後からはやくも復旧作業をはじめる被災者もあつた。各市は被災者へ救いの手をさしのべるとともに、きょう二十八日から本格的な防疫対策にも乗り出す。各市の被害のあとをみながら救助対策を調べてみた。

尼崎

尼崎市は武庫川が氾濫。三・六がオ・三・三の水位に達したが、大津波に備へて武庫川左岸堤防に二万戸をもちいたつた。市内九島町、道

宮町などで床上浸水六百戸、床下浸水九千四百六十三戸を出し、猪名川堤防も四万戸が浸水。市公又出稼一武庫川が不通となった。

武庫川警戒水位越す

宝塚市は水防対策本部を設けたが、雨量は午前十一時までに三・四〇に達し、武庫川警戒水位の三・三〇を突破した。午前中家屋全壊三、半壊三、床上浸水五十五戸、床下浸水百六十戸、ガケくずれ二十五カ所を達した。

▽尼崎市では午後二時現在床上浸水四百四十戸、床下浸水七千四百十三、道路浸水十八カ所を達し、井光寺、金葉寺、辰各地区で約五百人が近くの小学校に避難準備を始めた。市内全小、中学校も六十生徒は休む、市立高校二校は休校した。

▽西宮市内は御手洗川、新川、東川、瀬川などが朝日引きつづき増水し、一部でははんのにおそれもある。同市内の国鉄篠原駅北側付近一帯の浸水がもっともひどく、正午現在、同市の床下浸水は八千九百六十戸(同市水防本部調べ)北部の山崎では下半身の打撃だけで溺死した。山崎では約百戸を達している。

▽午後一時現在、西宮市内では四、五の水深に達する約千二百八十戸、ガケくずれ十二カ所、家屋倒壊二戸、河川浸水一戸、同半壊五カ所の被害が出た。午前八時半ごろ西宮市中央部、新川川の

27日の阪神各地の被害(午後5時現在・各市水防本部など調べ)

西宮	尼崎	伊丹	宝塚	芦屋	川西	合計
死者 2	2	3	3	3	2	15
全壊 210	210	35	37	48	216	1,368
半壊 8,506	9,463	8,284	673	2,224	30	21,918
床上浸水 4	4	7	6	3	1	18
床下浸水 19	19	6	3	16	2	117

死者は同床下田間道橋が崩壊した。

伊丹 一戸の堤防が伊丹市の天守川と天神川が決壊した。中でも天神川の堤防が決壊した。伊丹市の天神川は、堤防が崩壊した。伊丹市の天神川は、堤防が崩壊した。伊丹市の天神川は、堤防が崩壊した。

伊丹 伊丹市の二百戸の被害は床上浸水八戸、床下浸水千七百四十戸、田畑の浸水七百七十四戸、堤防決壊四ヶ所、道路損壊四ヶ所、橋の決壊四ヶ所となった。同市は災害後の防疫対策に全力をあげており、二十七日午後七時までに浸水被害の戻り取りを行なったほか、石灰を散布、浸水家屋約千戸に薬剤二種を無料配布した。また全市の家屋にDPT一袋を配った。

記録破りの豪雨被害

多かつた崖ぐすれ

家屋の全半壊二〇戸

二十六日夜半から二十七日にかけて降りしきった豪雨は近年にな
り記録破りの豪雨といわれ、被害も広範囲にわたたり、特に山地を開
発した造成宅地が原因となつた、がけもくずれ、石垣の崩壊などに
よる被害が意外に大きく、更に泥水の流出は住宅街の床下をぐぐり幾
度も冠没させるなどこれまでの水害にない特異の被害現象をあらわ
しています。

また浸水家屋も約千二百戸を数え溜池が決潰寸前という最悪事態にまでなりましたが、こたなきを得ましたのは幸いでした。余孽しに家屋のかたがたは誠にお氣の毒です。慰めもやらぬこのような事故の原因を二度とおこさぬよう国でも早速宅地造成の取締り法を立案するようです。

市では道路の復旧、浸水家屋の消毒など応急の処置をいたしますが市民の皆さんも被害箇所での復旧や伝染病の予防などに努力して下さい。

福知山線で立ち往生の七二六列車
ほっとした乗客

藍本 駅員 家族ぐるみ救援作業

二十一日夕の集會後、國鉄横濱山線は急所では水難事故が起き、通つてゐたが、二十七日翌本駅で立ち往生し、横山山麓、前六四三十分より、險行三、六分中、乗客に敵意的な話をして、同乗者などの家族、さうして、列島の通關調査費で、出た郵外者の行為を、國鉄の関天に、感謝されてゐる。

野、野木岡越水したての間草屋は百五十丁の乗を乗せたまた聖歌隊と立往生、乗客不能脱した。間もなく藁藁本中雨間を押し寄せ洪水のため、同列車は、そのとき同十時三十分、状況、そのとき同十時三十分には乗客がたふしなるといつうえ、乗客全員を職員御会に容

最悪の状態となつた。このときから、岡越水した乗客との通話かしの何よりも乗客の安全を、しつらな第一とあるといつた。たゞに余員は伏伏、非番員は自動車を要請、とりあふ同列車を古河方面の所に出張させることに力をあつて

職家族の応援援出て不安なおのく人たにたつては、ほかに、膝からと腰がしなれて努めた。多少、心も安心しなされるにつれ、ついに、く、列が気持よく、気象情報を知らせると、羽張風との家族方方を台せつて万の間に

夕方五時、ついに洪水を待てて

[illegible]

資料 1-5 下流部築堤区間における河道対策の安全性の検討について

「河川整備計画(原案) 第4章 河川整備の実施に関する事項

第1節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

1 河川対策 (1)河道対策 ①下流部築堤区間」に関すること

要 旨

密集市街地を流れる下流部築堤区間のうち、南武橋から JR 東海道線橋梁間の約 3km 区間は、洪水の流下能力が著しく低く、この区間の安全性向上は喫緊の課題である。

本資料は、この流下能力不足を根本的に解消し、早期かつ着実に安全性を向上させるため、橋梁補強や堰・床止工の撤去も併用した河道掘削の実現可能性について、以下の技術的検討を行い、その結果をとりまとめたものである。

- ①水理模型実験による橋梁の安全性検討
- ② 1 次元河床変動計算による長期的な河床の安定性
- ③ 2 次元河床変動計算による湾曲部等での局所的な河床低下
- ④河床ボーリング調査による河床の地質（掘削後の河床の安定性）
- ⑤堤防の浸透流計算による高水敷掘削後の堤防の安全性
- ⑥塩水遡上及び地下水流動計算による河道対策が地下水に及ぼす影響検討

なお、模型実験並びに各種数値シミュレーションは、河道掘削が引き起こす様々な現象の傾向を把握し、事業実施時の留意事項を明確にするために行ったものであり、数値結果を絶対視するものではない。

事業実施にあたっては安全性確保に向けて、更なる検討を行うとともに、事業実施後においてもモニタリングと維持管理を重視することが必要である。

資料構成

検討要旨

- 1 武庫川の概要
- 2 河道対策の概要
- 3 河道対策の安全性検討
 - A 水理模型実験
 - B 1 次元河床変動計算
 - C 2 次元河床変動計算
 - D 河床ボーリング調査
 - E 堤防の浸透流計算
 - F 塩水遡上・地下水計算

下流築堤区間における高水敷掘削について

4 検討結果総括

武庫川水系河川整備計画(原案)等に関する説明用補足資料

下流部築堤区間における河道対策の安全性の検討について

【目 次】

検討要旨	P 1
1 武庫川の概要	P 1 5
2 河道対策の概要	P 1 6
3 河道対策の安全性検討	P 1 7
A 水理模型実験	P 1 8
B 1次元河床変動計算	P 2 1
C 2次元河床変動計算	P 2 1
D 河床ボーリング調査	P 2 3
E 堤防の浸透流計算	P 2 4
F 塩水遡上・地下水計算	P 2 5
下流築堤区間における高水敷掘削について	P 2 8
4 検討結果総括	P 3 2